

第1回放射光戦略ワーキンググループミーティング 議事要録

日時：2007年7月19日（木）16時40分～18時40分

場所：4号館2階輪講室1

出席者：外部委員（雨宮、尾嶋、坂田、高田、村上）

内部委員（若槻、春日、野村、河田）、下村所長

書記（宇佐美、山崎）

オブザーバー（北島、澤、松垣）

- 議題：1. ビームライン新設・統廃合の中期戦略
2. NE3とBL-13AのNE1への移設（BL13のVUV-SX専用化とアステラスBLのAR-NE3建設を受けて）
 3. ターゲット・タンパク・プロジェクトによるタンパク質構造解析用SGU-BLをBL-1に建設、BL1A, BL1B, 1Cの移設の検討
 4. インドビームライン検討
 5. TDRの検討の仕方（BL検討委員会、公聴会その他）
 6. 次回以降の予定

配付資料：議題用P.P.資料、“Report of the PF”ISAC資料、EXCEL資料（取り扱い注意）

議事進行は、質疑応答をはさみながら、議題用資料に沿って、若槻施設長からの説明という形で行われた。

1. ビームライン新設・統配合の中期戦略について

若槻施設長より以下のような補足説明があった。

- ・7月17日に「BL1, BL8, NE1 関連ユーザーグループとのミーティング」を開催した。これらのビームラインに関するBL新設・統廃合について、PFで検討していることを説明した。
 - ・配布のEXCEL資料は、具体的にどのステーションを閉鎖してどこに移設するかなど、全BLに亘って考え始めた案で、現在PF内部で議論中のもの。具体的な内容も含めての検討はまだできていない段階。
 - ・PF懇談会とのコミュニケーションルートとしては2つ考えている。
 - 1) 中期・長期戦略については、メタユーザーグループのリーダー全員と相談する機会を定期的に持つ。
 - 2) 短期執行計画については、当該BLに関連するユーザーグループと関連メタグループリーダーとで相談する。
- ※メタユーザーグループ：PFの新しいグループ体制に呼応した形でいくつかのユーザーグループをまとめたもの。2007年5月30日のPF懇談会運営委員会で検討され、賛

成を得られた。体制については、8月のユーザーグループ代表者会議で決定。

- ・中期・長期戦略の目標は、「研究成果の質・量の向上」。そのためにビームラインを整理する。中長直線部は、7本のうち5本を VSX 用として使う。混在を解消、従来は汎用性が高かったが、アクティビティを上げるため主たる用途を定める。短直線部については2本、順番としては BL1, BL15..と考えている。
- ・PF-ISAC の重要な指摘事項として、ビームラインを統廃合する上で、どういうサイエンスを強化していくか (Areas of Excellence, AOE) 選ぶべきであるということがある。今後各グループで推進すべきサイエンスを出してもらおう。また、XAFS、小角散乱のような、ニーズの高いものをリストアップし、それらを中心としてビームラインの統廃合をしていく。

以下のような議論があった (C : コメント, Q : 質問, A : 回答)。

C : 世界の中での PF の位置付けを明確にすべき。

C : 単に「論文の少ないビームラインは閉鎖」と言っているだけのように見える。ビームラインを減らすことによってどれだけマンパワーを節約でき、PF でやるべき新しいサイエンス (AOE) に振り向けられるという説得の仕方をすべき。

C : 弱体化につながる可能性もある。ISAC に対して反論することも必要では。

C : 教育を担う PF のミッションも重視すべき。

C : AOE を明確にして、各ビームラインを対応させることが必要。PF が目指す方向性をもっと少しはっきりさせるべき。例えば、挿入光源の5本を電子物性にして本当に良いのか？

C : 電子物性のどのような分野が重要であるか検討が必要。

C : 電子物性に関しては外部ユーザーの中にキーパーソンが必要。外部だけでなく内部にもキーパーソンが必要。現状の構成員で議論している以上解決できない。

A : 外部資金で特任教授 (任期付) を採用する案がある。

C : 特任教授は道筋作りをして、意思決定という責任や最終判断は施設長が執るということにすれば問題ない。

Q : 構造物性や物質科学は減量の路線なのか？ ユーザーの数としては多く、定常的に成果をあげている。

A : X線分野のアクティビティが重要なことは認識している。現状維持もしくは発展させる方向。

C : どういう分野が PF としての AOE か、わかりやすく示してほしい。

C : 各分野のユーザー数、内部スタッフ数、今後の推移、グループ毎のステーションリスト、スタッフリスト、成果リスト。これらをわかりやすくまとめてほしい。

2. ビームライン統廃合の具体的案

検討中のものも含めて、現状で具体的に考えているものは以下のとおり。

13A, AR-NE3	NE1
NE1A1 (コンプトン)	SPring-8
NE1A2 (臨床応用)	次期計画 (地上階への展開)
NE1B (SX-MCD)	BL16
13B (XAFS)	既存 XAFS ステーションへ
1A,B	8A,B (?)
1C	11D (?) 検討中

以下のようなコメントがあった。

C : コンプトンの行く先が SPring-8 となっているが、こういう形で出されると困る。「PF では終結」という表現で。

C : 1A を 8A に移設する際に産総研との関係を明確にする必要がある。

C : 1C ARPES の行く先は、BL28 しかあり得ない。装置を弘前大で受入れる可能性はある。

C : ユーザーグループとの話し合いはできるだけ早いタイミングでしてほしい。

C : BL 統廃合をすすめながら理念を作るのではだめ。理念をまず作らないといけない。

C : 全体像が見えるように。5年後のマップが見えると良い。この表では全体像がわからない。

これらの議論を受けて、PF 側で以下の資料を用意し、次回戦略WGで提案することになった。

- ・ AOE (案) を改訂したもの
- ・ AOE に具体的なグループごとの BL を入れたもの
- ・ 統廃合の表をよりわかりやすくしたもの

インドビームラインの件は時間がないので次回に議論する。